

1 開催日時 令和6年1月12日（水） 午前9時45分から午後10時35分まで

2 場所 本校1階会議室

3 出席者

委員	小山 茂	保護司
委員	八木 尚子	民生・児童委員
委員	小林 浩	学校支援地域本部コーディネーター
委員	後藤 幹芳	父母と教師の会会長 緑小学校学校運営協議会委員
委員	塩原 真一	校長
委員	蓮沼 喜春	副校長
書記	鈴木 史子	特別支援教育コーディネーター 特別支援教室巡回指導教員

4 傍聴人数 0名

5 協議内容

(1) 校長挨拶

- ① 3学期始業式は1/9（火）に体育館にて対面で行った。能登半島地震や飛行機事故のこと、12年前の辰年の出来事として、東京スカイツリーの開業があったことを話した。
- ② 3年生は私立や都立の入試日程が続く。3月には校外学習、3/19（金）に卒業式が予定されている。2年は職場体験が予定されている。いろいろな経験をし、成長がみられたら良いと思う。1年は1/19（金）に都内巡りが予定されている。
- ③ 3学期は大事なまとめの時期になる。委員の方には1時間目の授業の感想をいただき、次年度に向けてやっていきたい。

(2) 授業参観の感想

- ① 3年のキャッシュレス決済やQRコード消費生活についての授業が今役に立つ授業としてよかった。また、体育館でバレーの練習も見させていただいたが、技術の指導の仕方が変わったように感じた。生徒は元気でよかった。
- ② 従来の授業のやり方をしている先生とICT機器を使っている先生のギャップがある。話し合い活動を通じて新しい発見が得られるような積極性を期待したい。
- ③ 先生方のパワーがみなぎっている。話し合いをしてから発表する形式は通り一辺倒であったが、これを教えたいという意識をして授業することが大切であると感じた。生徒が聞いていて楽しい授業をお願いしたい。
- ④ 生徒は一生懸命授業を聞いていた。先生と生徒の距離も近く、いい雰囲気と感じた。授業では、教師の発問に対し生徒の発言も多く、雰囲気が良いと感じた。
- ⑤ 先生方の教え方は情熱的で、コロナの時とは雰囲気が違うと感じた。学年が進むにつれ話し合い活動に積極性が感じられなくなる。小学校ではができていたが、それができなくなるのは年頃のせいかな。自分の考えを引き出すためにどうすればよいのか。

校長 授業改善（研修や公開研究授業）を通じて、ICTを教員だけが使うのではなく、生徒が使う場を増やしていきたい。これからの授業スタイルはともに学ぶことであり、教員は生

徒の黒子になる覚悟が必要である。教員が教えなければならない基礎基本はあるが、生徒が主役でなくてはならない。根本的に見直していく。

- ⑥ 生徒の心理的安全を保障することで意見を言いやすくなる。話し合い活動を活発にするためには、教員はファシリテーションをし、学級の雰囲気づくりをすることが大切である。
- ⑦ 自分の今までのやり方を手放す勇気がある。知識を教えることだけが授業改善ではない。校長のリーダーシップに期待したい。

校長 粘り強く指導していきたい。学年によって違いはあるが、4月より人間関係は良いと思う。

(3) 令和6年度の本校の教育活動に関して

校長 学校経営方針と教育計画の準備をしている。体育会、文化発表会、修学旅行、山の移動教室、などの予定などが年間行事予定に入っている。

○別室指導について

- ・1月13日現在10名利用している。1名体験をしたので11名になる見込み。

○本校のキャリア教育の体系について

- ・1年で地域を知り、2年で職場体験を通じて働くことについて学び、3年では上級学校について学び、自分の進路を考えていくようになっている。

- ① キャリア教育は就職を目指す指導ではない。「よりよく生きる」生き方について、先生方が生徒とともに興味をもち、キャリアについて考えることが必要なのではないか。
- ② 特別活動の最終目的はよいが、生徒の主体性を育むはずなのに、教員主導になっていないか。教科で協働を取り入れることが難しいなら、まずは特別活動で取り入れるのも有効である。

校長 3年の入試に伴い、面接練習をしているが、緑中の生徒は話すことは上手である。生徒の声を学校経営に反映させていきたいと考えている。対話が必要である。

○生徒指導について

- ① 常に自分はこう思う、と言い合いをしてもよいのではないか。快適に学級で過ごすためには対話が必要である。
- ② 教員は生徒と対話しようとしているので、対話ができる教員が増えていくのではないか。校長のパワーをもって取り組みを進めてほしい。
- ③ 生徒が試行錯誤を続けていくことを評価すべきである。

校長 生徒の良いところを伸ばしていく。これを目指すための目標として、緑中全体を組織的にしていく。生徒に目をかけ、手をかけている学年もある。そのよさを全体に示していきたい。

○教職員について

- ① CSでは、教職員の人事に関するとも言えるとなっているが、小金井市はできない。緑中で指導したい先生を着任させたい。
- ② 地域と先生方が互いを知ることが必要である。熟議をしてはいかかがか。
- ③ 進学に関しては、都立高校のみを志望し、私立高校を第2志望にすることができない生徒がいるようである。助成金もあるのだが、情報がいきわたっていないのではないか。
- ④ 情報交換をする横のつながりがいい。PTAとの関わりがない。

校長 入試は出願方法も変わってきている。家庭でも協力していただいている状況である。

(4) その他

- 後藤氏が学校関係者評価委員長に選出される。
- 次回、学校評価報告書のとりまとめを行う。協議資料を事前送付するのでご確認いただきたい。

(5) 事務連絡

2/26(月) 15:00～ 学校評価報告書の確認、令和6年度に向けて